



Title	ドイツヤポニクムにおける日本語集中講座
Author(s)	細野, 怜花
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 4 - 7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102666
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



2022年度に博士前期課程を修了した細野怜花と申します。私は現在、ドイツにあるボーフム・ルール大学外国語教育研究所(LSI)日本語学科(ヤポニクム)にて客員講師を務めています。

LSIとは、1973年に成人を対象として開校された州立の外国語教育機関で、2007年からルール大学の附属機関となりました。日本語以外にも、アラビア語、中国語、韓国語、ロシア語、外国語としてのドイツ語(DaF)のコースを定期的に提供しており、さらにペルシャ語、タガログ語、英語のコースも不定期で提供しています。大学の附属機関ではありますが、学習者は大学生に限らず、ビジネスマンや高校生、引退後の世代に至るまで、幅広い年齢層の多様な背景を持つ学習者が受講しています。

ヤポニクムのコース概要

ヤポニクムの特筆すべき大きな特徴の一つとしては、「集中講座」の提供が挙げられます。集中講座とは、月曜日から金曜日まで全日の授業を2週間継続して提供する講座形態で、コースの参加者の多くは、敷地内に隣接するゲストハウスに泊まり込み、まさに「日本語漬け」の2週間を過ごします。定期的に関講されるコースは主に、初級レベルの「日本語1・2」、中級レベルの「日本語3・4」の4つで、その他にも、上級レベルの『オーバーコース(Oberkurs)』、中高生向けの『シューラーコース(Schülerkurs)』、日本からドイツ語学習者を招いて日独学習を合同で行う『タンデムコース(Tandemkurs)』など、多種多様なコースが提供されています。基本的には教授法はドイツ語を媒介語として用いた間接法を採用していますが、目的やレベルに応じて直接法を使うこともあります。授業形態は、以前は対面授業のみを提供していましたが、コロナ禍をきっかけに、教室に遠隔授業システムが設置され、現在は対面形式の授業にオンラインでの受講者も参加するハイブリッド形式の授業も行っています。

また、コロナ禍以降はオンライン授業にも力を入れており、「日本語1-4」授業は、夜間のオンラインコースでも提供されています。夜間コースは週2回・10週間のカリキュラムで、仕事や学業などのために2週間の集中講座に参加することが難しかった学習者に人気のあるコースです。

授業を担当する教師は全部で5人で、私を含む3人が日本語母語話者、他2人がドイツ語母語話者で、全てのコースをチームティーチングで担当しています。



LSIの外観

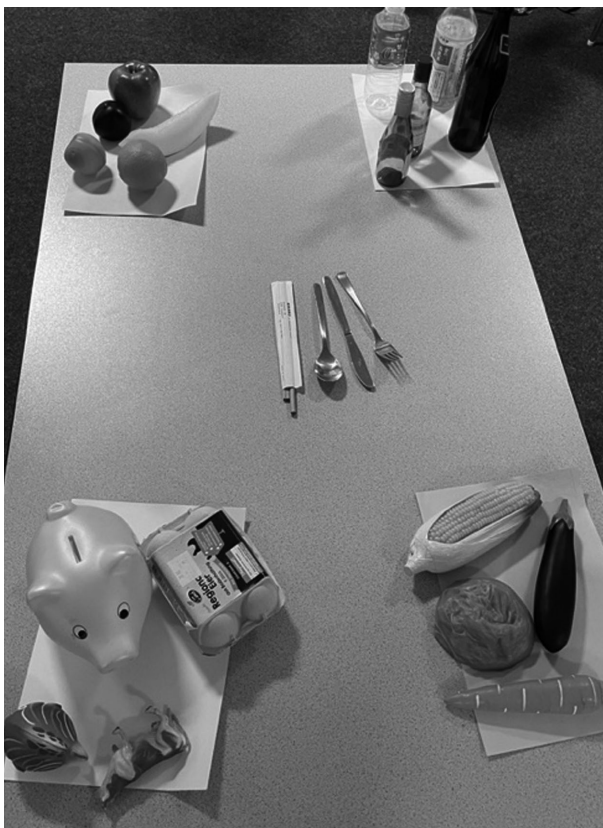
特色ある授業実践

ヤポニクムの集中講座は、月曜日から金曜日の朝8時半から17時まで、2週間みっちりとかリキュラムが組まれています。ある種の『日本語合宿』のようなスタイルなので、受講者にコースの最後まで集中力を切らさず、モチベーションを高く保ってもらうために、授業内で様々な工夫がなされています。授業のレベルごとにカリキュラムは異なりますが、本稿では初級レベルの「日本語 1・2」で行われているいくつかの授業実践をご紹介します。

まず、集中力・体力に余裕のある午前中は、ヤポニクムが独自に開発した教科書を用いて、新しい語彙や文型の導入を行います。2週間という限られた時間で、受講者ができるだけ多くの表現を自分のものにできるように、体操やジェスチャー、ダンス、ゲームなどの活動が積極的に取り入れられています。毎日続く長時間の授業の中でも受講者が楽しんで学習できるような雰囲気作りが、私たち教師チーム全体で常に強く意識されています。

午後には、まず全身反応教授法(Total Physical Response, TPR)を用いた活動が行われます。これは、翌日以降に導入する項目を説明せずに聞かせ、意味を推測しながら教室のものを探したり選んだり、パントマイムで見せたりし合う活動です。未知の語彙や表現を聞き、トライ＆エラーを繰り返すことで、新しい外国語を学ぶ際の心理的ハードルを下げる効果も期待されます。

以下の写真は食べ物・飲み物がテーマのTPR活動を行った際の写真です。教師が口頭で「野菜を指してください」「豚肉を指してください」等の指示を出し、受講者は指示を聞いて動きます。段階を踏んで、「ビールを取ってください」「バナナをナイフとフォークで食べてください」など様々なバリエーションの指示を出します。受講者はこの活動内では一貫して発話が求められないため、指示の理解に集中することができるというのも、このTPR活動の利点の一つです。



食べ物・飲み物がテーマのTPR活動

TPR活動の後には、シチュエーション練習と呼ばれる会話練習の活動を行います。レストラン訪問、道案内、買い物など、初級の学習者でも日本に行けばすぐに出会うことになる可能性が高い場面の短い会話を練習する活動です。受講者がお互いに自由に話しかけ、短い会話を何度も繰り返して練習をします。慣れてくるとアドリブを利かせて会話を楽しむ受講者も多く、コミュニケーションですぐに使えるということを目指し、これまでに学んだことのアウトプットの場として活用されています。

そして、漢字学習の時間も設けられています。ヤポニクムでは口頭コミュニケーション能力の養成に力を入れているため、漢字学習はあくまでプラスアルファの項目として扱われています。「日本語 1」で約80字、「日本語 2」で約60字の漢字を学習しますが、授業内では既習の漢字にも常にふりがなをつけています。受講者は基本的に非漢字圏の学習者であるため、イラストの

載った漢字カードを使って記憶の助けにしたり、全員で腕を大きく使い空書きをして漢字の形を体に染み込ませたりと、様々なストラテジーを使って、楽しく漢字を学習できる機会を提供しています。

その後、これまで学んだ知識を体系的に整理するための時間として、文法まとめの時間が設けられています。この授業は主にドイツ語母語話者の教師によってドイツ語で行われ、ドイツ語話者がつまづきやすいポイントなどを改めて確認することができます。特に初級では、日本語とドイツ語の言語としての違いの大きさに衝撃を受ける学習者も珍しくないため、媒介語のドイツ語を使って明示的に日本語の特徴を学べるのが、受講者の大きな助けとなっています。

このように、アクティブな活動の時間とパッシブな理解の時間が代わる代わる効果的に配置されていることで、長い集中講座の中でも気分のメリハリをつけ、最後まで楽しく学習に取り組めるようになっています。

アクティブなハイブリッド授業への挑戦

対面授業をカメラで配信してオンラインでも参加すると聞くと、オンラインの受講者はただ外から対面授業の様子を見学しているだけといった形式の授業を想像される方も多かもしれません。しかし、ヤポニクムのハイブリッド授業では、オンライン受講者も主体的・積極的に授業に参加できる「アクティブなハイブリッド授業」を目指して、日々授業の進め方を工夫しています。以下の写真のような遠隔授業システムを使い、オンライン受講者の顔のみならず、対面受講者や教室の様子までもモニターに写し、オンライン受講者もまるで教室にいるかのような雰囲気を作っています。会話練習などのペアワークの際は、オンライン受講者と対面受講者が一対一で話す機会を設けるために、教室内に複数台のタブレット端末を設置し、対面・オンラインに関わらず、全ての受講者がアクティブに授業に参加できるように心がけています。また、必要に応じて、FigmaやPadletなどのオンラインツールも積極的に活用し、ハイブリッドだからこそできる活動も柔軟に取り入れています。オンラインツールは常に新しいものが開発され続けており、よりよいツールを探したり、新しいツールを使いこなしたりするのは難しいこともありますが、よりよい授業にしていくために、日々アンテナを張って、情報収集に努めています。



教室の遠隔授業システム

おわりに

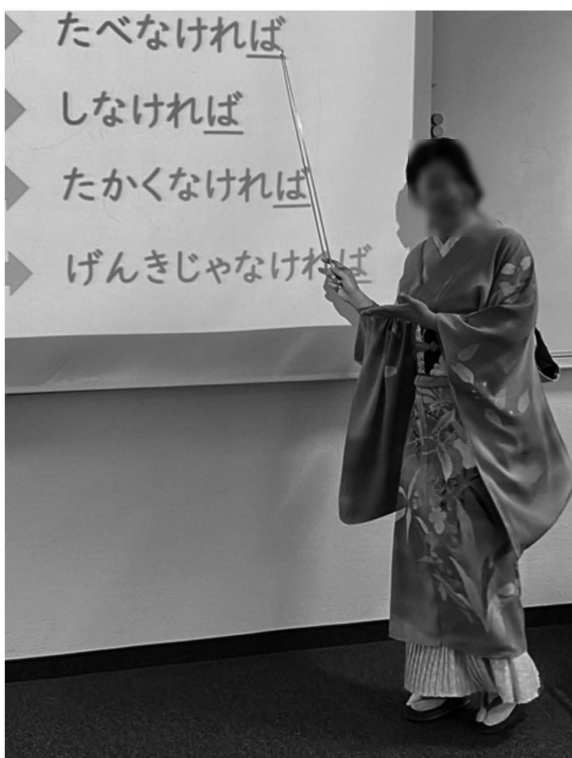
ヤポニクムは、全日コースでは2週間、夜間コースでは10週間という比較的短い期間でコースを終えます。通常の大学のセメスターなどと比べると確かに短いですが、特に全日コースでは毎日朝から晩まで顔を合わせるため、短期間ながらも思い出深い、濃い関係を築くことができます。様々な年齢・ニーズ・背景の受講者が集まるため、授業の進め方などに悩んだり、苦労したりすることも少なくないですが、コースに参加した受講者が、「とても楽しかったから!」と次のコースにも継続して参加してくれたり、友人や家族などを紹介してくれたりすると、「満足してもらえてよかった」「またこれからも頑張ろう」と、達成感ややりがいを感じます。

また、個人的な話ではありますが、時々趣味の着物を着て授業をさせていただけるのも、日々の楽しみの一つです。(ドイツは日本に比べて暑い期間が短いので、一年の4分の3ほどは袷の着物が着られて、日本にいた時より充実した着物生活が送れています。)着物に興味を持ってくれる受講者が多く、習ったばかりの日本語で一生懸命に褒めてくれたり、着物について質問してくれたりして、とても嬉しいです。

そして、1年ほど前から、大学のドイツ語のコースにも参加して、日々ドイツ語の勉強にも励んでいます。学生として言語の授業に参加すると、言語の知識だけでなく、授業のやり方やフィードバックの仕方など、教師として学ぶことも多く、たくさんの刺激をもらうことができます。

日本語教師としても、ドイツに住む外国人としても、まだまだ経験不足で、うまくいかないことやカルチャーショックなどで大変だと思いうことも少なくないですが、だからこそ日々の生活が刺激いっぱい、毎日新しい発見や成長を見つけることができ、とても充実した日々を過ごしています。これからも成長し続けられるよう、がんばっていきたいと思います。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました!



着物を着ての授業



「日本語1」の授業の様子